

## 2024年7月度 高島屋営業報告

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、営業報告で開示する売上高につきましては、従来の基準（総額売上高）で開示しております。

### 〔売上高 総計〕

		(前年比 単位:%)	
株高島屋計 <sup>※1</sup>	+8.3	株高島屋 および 国内百貨店子会社計	+8.9

### 〔店舗・事業部別 概況〕

		(前年比 単位:%)			
		売上高	入店客数	売上高	入店客数
大阪店	+13.7	+2.5	EC店	+3.7	-
堺店	△4.2	+0.3	株高島屋各店計	+7.4	+2.8
京都店 <sup>※2</sup>	+14.5	+21.5	岡山高島屋	△13.2	△6.3
泉北店	△6.4	△4.8	岐阜高島屋	+86.4	+92.7
日本橋店	+6.4	△0.2	高崎高島屋	△0.4	△2.8
横浜店	+4.4	+1.2	株高島屋各店 および 国内百貨店子会社計	+8.1	+3.7
新宿店	+12.4	△0.1	法人事業	+28.7	
玉川店	△2.1	△1.5	クロスメディア事業	△0.4	
大宮店	△7.4	+2.4			
柏店 <sup>※3</sup>	△8.9	+2.1			

※1. 株高島屋の売上高は、株高島屋各店、法人事業、クロスメディア事業を含みます。

※2. 京都店は「洛西店」の売上を含みます。また、2023年9月からレストラン街の運営を子会社に移管したため、それを調整した実質では前年比+17.3%となります。

※3. 「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」の売上高と入店客数をそれぞれ含みます。

### 〔商品別売上高〕

		(前年比 単位:%)						
		株高島屋	株高島屋 および 国内百貨店子会社	株高島屋	株高島屋 および 国内百貨店子会社	株高島屋	株高島屋 および 国内百貨店子会社	
衣料品	+4.7	+5.5	食料品	△5.3	△5.0	サービス	+2.2	+2.4
紳士服・洋品	△1.9	+0.6	生鮮食品	△6.9	△7.6	その他	+89.9	+85.5
婦人服・洋品	+8.3	+8.7	菓子	△5.3	△4.7			
子供服・洋品	△7.0	△5.6	惣菜	△6.4	△5.7	合計	+8.3	+8.9
その他衣料品	△8.1	△6.9	その他	△3.0	△2.9			
身のまわり品	+20.2	+20.5	食堂・喫茶	△17.5	△14.8			
家庭用品	+7.0	+10.2	雑貨	+16.0	+17.0			
家具	+0.6	+5.3	化粧品	+13.3	+12.7			
家電	△12.8	△12.2	美術・宝飾品・貴金属	+20.7	+23.4			
その他家庭用品	+14.4	+17.3	その他	+6.0	+7.3			

○百貨店売上高（※既存店対比）は、前年比+8.1%、2019年比+15.4%、2018年比+14.1%といずれも上回りました。国内顧客は、婦人ブラウス、パンツなどの夏物衣料（正価品）や旅行用品に動きが見られました。また、インバウンドは、引き続きラグジュアリーブランドを中心とする高額品が伸長し、全体を押し上げました。

	前年比	2019年比	2018年比
店頭売上高	+8.1%	+11.9% (※+15.4%)	+10.4% (※+14.1%)
免税売上高	+82.9%	+147.8% (※+148.3%)	+146.9% (※+147.7%)
免税を除いた店頭売上高	+0.8%	+2.0% (※+5.4%)	+0.6% (※+4.2%)

○法人事業は、受注が堅調に推移したことにより、前年実績を上回りました。

クロスメディア事業は、通販カタログの計画的な部数、ページ数の削減影響により前年実績をわずかに下回ったものの、食料品が堅調に推移し、想定を上回りました。

○8月の店頭売上高（14日までの累計 ※既存店対比）は、前年比+8.5%、免税売上高は、前年比+53.5%、免税を除いた店頭売上高は、前年比+3.3%で推移しています。